文部科学省認可通信教育

ON AIR

NO. 108

放送大学通信 オン・エア
発行月 2012年12月
発 行 放送大学
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
043-276-5111(総合受付)

CONTENTS

特集:面接授業 …… 1
私が通う学習センターの面接授業はここがおもしろい! …… 4
コース別座談会 …… 8
放送大学の国際活動について …… 12
被災地レポート …… 13
2013年度学部・大学院開設改訂科目 …… 14
研究室だより …… 18
学習センターだより …… 19
インフォメーション …… 20

特集 面接授業

面接授業でしかできない授業とは?

北海道学習センター 筑和 正格 所長 × 大阪学習センター 林 正則 所長 × 福岡学習センター 小寺山 亘 所長

(写真左から)小寺山 亘所長、筑和 正格所長、林 正則所長

教員が直接指導する面接授業は、地方の特色を活かした授業が人気です。そこで北海道・大阪・福岡の学習センター所長にお集まりいただき、人気の面接授業について、そして面接授業を企画する上でのご苦労やこれからの面接授業のあり方などについて鼎談いただきました。

※本文中は敬称略とさせていただきました。

「歴史」が人気の九州・沖縄と近畿。北海道では「北海道学」を開講

小寺山　各県独自の歴史を持つ九州・沖縄ブロックでは、歴史をテーマとした面接授業の人気が高く、12年度2学期も、沖縄が「日琉交流史」、宮崎は「古事記にみる古代日向の物語」、佐賀は「江戸初期佐賀藩の土木技術」といった具合で、みなさん自県の歴史に強い関心を持っていらっしゃいます。九州・沖縄として考える場合には中央に対する団結心といったものも働くようです。また、九州新幹線開通で連携面接授業を受講される学生の方が増え、歴史への関心は広がりを見せています。

林　その点、近畿はもっと近い。歴史の材料にも事欠かず、地域関連の授業は高い人気です。が、例えば、近江の歴史の授業に神戸や大阪から出かけるかというとそうでもないようです。奈良・京都…各県がそれぞれ独立していて、近畿ブロックとして団結してアンチ東京なんてことにはならないですね。

筑和　佐賀藩の話が出ましたが、佐賀は北海道開拓と深く関わっています。このように北海道の歴史は、明治維新以降の近代史という括りでは大いに語られますが、それ以前の、蝦夷地と呼ばれた頃以前の歴史にはあまり日が当たっていません。近畿や九州とは歴史の成り立ち、捉え方のニュアンスが違うようです。そういう背景もあって、北海道学習センター

では総合科目「北海道学」を設けています。歴史・自然・科学・文化と大枠でカテゴリーを決め、作り上げながら体系的かつ総合的に北海道を理解しようというもので、学生の方には好評です。

林　大阪にも「大阪学」があって、方言やものづくり、商人の歴史を取り上げています。また、京都でも西陣を、滋賀でも近江商人を、というように地域の特色を出した“地域学”は盛んですが、「近畿学」というところまでは…。県民性でしょうか、京都と大阪を一緒にやりましょう、なんてならないですね。

広い北海道では必需ツールのTV会議システム（遠隔面接授業）

筑和　北海道での“距離の克服”は大きなテーマで、鹿児島や沖縄の所長とはよく話題になります。奄美大島など島嶼部を抱えた鹿児島の所長は、北海道とTV会議システムで結んで授業をやりたい、と。

小寺山　面接授業は、放送授業ではできない双方向性を担保するものです。その点についてTV会議システムはいかがでしょう。

筑和 正格 所長

筑和　音声は双方向で、互いに同画面、または相手を見ながらの授業です。教員と学生は画面を通じてやりとりできます。少なくとも北海道の学生の方には好評です。何しろ学習センターのある札幌まで行かなくて済みますから。同システムは北海道では必需ツールと言えます。

林　そもそも面接授業とは何か──先生の顔を見て生の声を聞いて強い印象を受ける。一緒に机を並べて勉強する。先生と学生が、学生同士が“学びの場”を作り上げていく、その体験こそが貴重です。

筑和　確かに、face to faceではない分、双方向性や親密感は薄れるでしょうが、second bestと考えています。また同システムで全ての授業を、という訳ではありません。システムに合った授業のタイプというものも自ずとあります。

小寺山　先日旭川サテライトスペースにお邪魔しましたが、地元の人が近いという札幌からかなり遠いと感じました。道北、道東の人はもっと遠くから移動しなくてはいけない。しかも、雪の中を。そういう北海道だからこその放送大学ではないか、という話も出ました。それだけにTV会議システムは必要なのでしょう。以前の職場で産学連携担当として同システムを通じて全国の研究者とやりとりした経験がありますが、やはり“慣れ”というのは大きいですね。IT系の人は全然苦にしていない。放送大学の全学生に“慣れ”ていただくとなると難しい点があるようには思いますが…。

小寺山 亘 所長

筑和　広島学習センター所長が広報誌上で、イギリスの公開大学の名前が“The Open University”（OU）になったいきさつを紹介され、OUの今後の一使命として「急速な情報通信革命への対応」も指摘されていた。放送大学も同様でその一つの解がTV会議システムです。今後どこまでよりよくなるか、の追求はなされるべきだろうと考えています。

学生ニーズと放送授業との整合性との裕（はざま）で問われる面接授業

小寺山　面接授業は学生ニーズに添って所長がプロデュースしています。学生ニーズと放送授業との整合性、この両者の関係をどう考えていらっしゃいますか。関東で面接授業が始められた当初は、放送授業の補完授業としての位置づけだったと推測しますが、私たちにはその歴史がありません。

筑和　モノを書いたり読んだりする基礎的な力をつける機会が少ない、との声が以前からありました。そこで、課外の基礎ゼミですが「書き方教室」のようなものを開講しています。また2学期では面接授業「社会調査法」を開講しており、その効果を見ながら論文指導等につなげたいと思っています。学生ニーズ一辺倒ではなく、大学卒業に向けた放送授業

との整合性ももっと問われてよいと思います。

小寺山　面接授業が放送授業の“足らざるところ”を全部補完できる訳ではありません。そのため、ゼミや公開講演会などさまざま試みながら双方向性を担保しょうとみなさん努力されています。

林　だからこそ面接授業でしかできないことは何か、が問われているのではないでしょうか。それは、やはり教員と学生が対峙しながら“学びの場”を作り上げていくことで、この体験は面接授業でしか得られません。そういう場を準備することが私たちの役目です。大阪学習センターで学ばれる学生に最高齢94歳の方がいらっしゃいます。大きな声でドイツ語の発声練習をされ、学ぶ喜びを身体いっぱいに表しています。そして周囲の学生に、こんなに喜びを持って学んでいるんだ、と深い感銘を与えています。こういう学生同士のふれあいや互いに切磋琢磨することも面接授業でしかできない貴重な体験です。

小寺山　教える側の客員の先生にも、深い感銘を与えているようです。「自分から学ぼうとする人たちが多いのに驚いた。納得行かれるまで質問される。自分の大学では得られない喜びです」と。

林　「とんでもないところから矢が飛んできますよ。そのスリルを楽しんでください」と先生方に申し上げています。授業の最後に学生に感想文を書いてもらいますが、年代もライフスタイルも十人十色、こんな受け止め方をされたのか、と驚いたり、結構厳しい意見にヒヤリとしたり。でもそれは学生が感動を持って受講したということで、先生方は「すごく新鮮だった。おっしゃる通りだった」と。

筑和　北海道でも、自分の大学とは大違い、との感想を抱かれる客員の先生方が多いですね。

面接授業でしか味わえない知の感動を。そのために、もっと多彩な授業を

林　面接授業での先生と学生との出会いは、まさに一期一会です。そこでしか味わえない知の感動を――その意味で、もっといろいろな面接授業があっていいと思うのです。京都だったら西陣織の方とか、京料理の方とかを招いて…。でもいろいろな制約がありますよね。教授歴が何年ないといけない、とか。

小寺山　授業に一定の質の保証を、ということで標準として設けてあるもので、余人を以て代え難い、ときちんと説明できればいいのではないでしょうか。また、面接授業の組立方を工夫すれば…例えば博多織の名人に話してもらう場合、歴史とか被服科の先生による授業に組み込むとか。

林 正則　所長

林　そうそう、去年、阪大の先生が行った面接授業が「住吉大社御田植神事」。この神事はミナミの花街の女性たちが支えていますが、そこの大和屋という由緒ある料亭の女将が登壇して歴史の話をされたのです。学生の皆さん、それはびっくり。滅多に聞けない話だったと大評判でした。実は今「宝塚歌劇」をテーマに授業できないかと、ある客員の先生と相談しています。

筑和　北海道では演劇のワークショップを計画中です。作家　倉本聡氏が深く関与されている「富良野演劇工場」の人たちに出てもらいます。テーマは「自分の気持ちが相手に伝わるにはどうすればよいか」。演劇文化を日常生活の中に根付かせ精神的な豊かさの実感を、という理念のもとに活動している人たちです。演劇は一度見てつまらないと二度と見てもらえない、だから緊張感をもっていろいろ工夫します、と。どういう授業になるか今からとても期待しています。

小寺山　それは楽しみですね。さて、時間が参りました。地域色豊かな面接授業から始まり、最後はもっと多彩な面接授業を、と私たちに向けられた期待や課題も含めて多くのことを語ることができました。これからも「面接授業でしかできない授業とは？」を自問しながらお互いに頑張りましょう。

学習センターの面接授業を受講する学生が紹介します!

私が通う 学習センターの面接授業は ここがおもしろい!

在学生の皆さんにとって、より身近で関心の高い情報として「学生たちの声～私が通う学習センターの面接授業はここがおもしろい!～」を企画いたしました。各学習センターの学生から、特色ある面接授業に関連した内容についてお書きいただいております。

北海道学習センター

自分の故郷をより知りたいと思い受講した「北海道学」は各専門分野の著名な先生による毎回違った切り口での講義で,氷河期からの歴史や顔で祖先が判る等の興味深い話題が満載です。遠隔面接授業で函館や帯広の学生さん達と一緒に受講した「異界文学」も共に学ぶ仲間が沢山いることが実感できて心強く感じました。次学期以降も楽しみです。

荒川　澄子さん

秋田学習センター

以前の授業では、天才哲学者達の(得手勝手な)言説を理解できず、むしろ考える方法の実際を学びたい、と感じて来ました。一昨年から『哲学の問い方』のような授業が開設され始め、存在、知覚、観念、他者などの基本事項について、自分で考えることを丁寧に教えてもらい、初めて哲学実践の緒につけたと感じました。お勧めです。

多田　利雄さん

青森学習センター

思い出に残る面接授業は、平成23年5月末の「フィールドで見る白神の人と自然」です。全国から参加の学生との会話や山、川での事前注意など、老齢の私には参加に不安がありました。しかし、山の斜面登りも川の渡渉も無事こなし、白神山地の地形、植物分布、山村生活、資源保護などを勉強し、参加前の心配は影をひそめて楽しい授業となりました。

佐伯　一成さん

山形学習センター

第二の学習の場となる放送大学は、学ぶことが楽しく、知識が脳に刻まれていくのに驚きました。自身の新しい発見でした。今一番興味のある科目は、客員教授(山形県立保健医療大学)佐藤寿晃先生の「リハビリテーション」です。実技もあり、高齢化社会にピッタリのテーマです。毎回違う角度からの講義なので必ず受講しています。次回が楽しみです。

安達　喜久江さん

岩手学習センター

「園芸植物学実験実習」では、座学よりも実験室講義が多い。植物の生長や形態を受講した後は、実際に播種・定植・挿木などを土との触れ合いで楽しんだ。受講生の質問が数多く出たが、先生の丁寧な説明とそれが又、授業を膨らませる良い題材となった。スイカの実食と、種や苗の持ち帰りOKは受講した特典!であり、来春には花咲か名人!?になれそうだ。

鎌田　あゆみさん

福島学習センター

「人間生活ときのこ」の授業は、最高に楽しい時間でした。福島原発によるきのこの放射性セシウムについて、スライドで毒きのこ食用きのこなどを詳しく学び、次の日は大学の調理室できのこづくしの美味しい料理。全員で記念写真。きのこ柄のネクタイの広井勝先生の大ファンになりました。その後も先生が講義する場所に追っかけをしています。

柏木　明美さん

宮城学習センター

学舎は大正時代の建築、周囲には古木や巨木、講義室は折々に新緑や紅葉が窓にせまり、学びモードを全開にしてくれます。「ギリシア美術へのいざない」を紹介します。現地での研究豊かな講義は臨場感たっぷり。時折、顔の横に手を置く講師の仕種は地中海の風を受けているようで魅力的です。宮城ならではの「歴史」や「文学」も充実しています。

伊藤　英子さん

茨城学習センター

田内教授の「放射線の生体への影響」は、東日本大震災後のため、満員の面接授業であった。生体の影響は、放射線の種類や年齢などで異なるので被爆によるリスクが1目で判断できるシーベルトで表すこと、放射線のよる1個のDNA損傷に対し、何万分子というタンパク質分子がシグナルを出して修復する機能が生体に存在することなどを学び有意義であった。

葛貫　壮四郎さん

栃木学習センター

面接授業の良さは、インタ・ライブ授業やグループディスカッションを取り入れたオリジナルの授業があること、これこそ面接授業の醍醐味です。講師の方々と学生との対話や質問等により、授業の理解度が一層高まり最後には達成感に満ち溢れます。他県の皆さんも是非、栃木学習センターに足を運んでみませんか。宇都宮の餃子もおいしいです。

黒﨑　晃一 さん

群馬学習センター

群馬は東国の古墳王国です。1日目はセンターで講義を受け、2日目に各地をバスで巡って古墳に登ったり、石室の内部を見学したりする授業があります。また、尾瀬などに出掛けて自然保護の現状などを学ぶ宿泊型の授業もあります。

そんな現地での体験型授業は、教室での授業とは一味違った楽しみがあります。

小野里　直道 さん

埼玉学習センター

私は仕事が工業系だったので、文学や芸術の知識が人より少ないことに気づいていました。退職後、放送大学へ入学してからは、この方面の分野の知識を面接授業で得ています。特に面接授業で美術の話を聞きますと、その場で自分が絵を描いたり彫刻したり、また、批評できるような雰囲気にしてくれる先生がいて、授業が待ち遠しく、早起きしてしまう程楽しいです。

吉田　憲一 さん

千葉学習センター

どの面接も面白い。共に経験豊富な先生と放大生の丁々発止のやり取りはTV受講では味わえないナマの授業ならではの風景である。学問を深く掘り下げて学ぶには1回の面接授業では足りず、同一分野で段階的に高度になる授業も開いて欲しいと切に願う。今秋受講中の菅原先生「近世の古文書を読む '12」は、昨秋から1年間崩し文字と格闘して臨んだ。来秋も受けたい。

澤田　恵子 さん

東京渋谷学習センター

東京渋谷学習センターは、渋谷駅から徒歩5分と交通至便で、日中の面接授業の他に、早朝や夜間の授業も盛んで、仕事をしながら学んでいる方には特に便利です。受講した“初めてのスペイン語:発音編”は、語学に欠かせない発音、その国の文化が直接に聞けて楽しみました。アクセスの良い渋谷キャンパスは、今後学生も増え授業科目も更に充実してくると思います。是非一緒に学びませんか。

小林　光子 さん

東京文京学習センター

日本の学生は何年間も英語の勉強をしますが、多くの人は英語が話せない。「話せる」というだけで一目おかれます。話せないのは「英語の発音の特徴を知らないから」といわれます。面接授業「発音をめぐる冒険」は大変興味深く、先生の発音はまるでネイティブの女性です。詩の朗読や英語版早口言葉もあり、riceとliceの発音を間違えれば、米が虱にもなります。こんな冒険、お薦めします。

小瀧　千春 さん

東京足立学習センター

各コースに興味ある科目が多く、満席の講座が多いです。生活と福祉の「作って学ぶ化粧品」実験を通して生活用品の安全、心理と教育「認知的個性を考える」、「発達心理学」現在の子どもを取り巻く状況の理解、人間と文化「千住を往来した人々」当センターならではの講座で千住宿を通して江戸の歴史と対面授業を生かした講座が多く、女性講師陣の熱意ある講義も満席の大きな要因です。

鈴木　善和 さん

東京多摩学習センター

「問題発見と解決の技法」の面接授業は誰もが受けて得する講義である。日常生活では問題が発生してから対策を立てることが多い。しかし、その技法を知ることで予防にも繋がる。講義を受けた後は、問題を探したくなる楽しさがあり、気持ちが落ち着き、不安がなくなること請け合い。よく判る講義だった。私は、この講義を早い時期に受けたかった。

簗瀬　忍 さん

神奈川学習センター

面接授業の「妖怪の文化学2」は老若男女の生徒が集まり、まさに放送大学らしい雰囲気の中での授業でした。

妖怪の存在は人類の歴史の影の部分を表象しているといっても過言ではないと思います。河童伝説一つをとっても土地によって友好的又は全く逆の攻撃的な伝説があるのはなぜか?深い内容でした。ちなみに先生は河童の手をお持ちだそうです。

井上　真利 さん

新潟学習センター

佐渡が島での面接授業「海洋生物に学ぶ生物多様性と進化」では、シュノーケルを装着して尖閣湾達者の海に入って、ウミウシ、アメフラシ、ニホンクモヒトデなどいろんな生物を観察、採集でき童心に帰って楽しく学ぶことができました。

交流会では、笛や踊りや海の幸で盛り上がり、楽しく過ごせました。ご一緒させていただいた皆様に感謝です。

久保　葉子 さん

富山学習センター

富山は自然に囲まれた中、老若男女を問わず大勢の学生が面接授業を受けにきています。今回の「食べる話すのリハビリテーション」の面接授業は脳の構造から疾患、症状、食事のリハビリ、話し方など多方面のアプローチを行った非常に濃密な内容でした。これからに必要な最新の知識と技術を学べ、生涯学習という素晴らしい環境にとても感謝しています。

杉本　吉生 さん

石川学習センター

城下町金沢を始め、土までもやさしい能登半島に住む学習仲間、他県の方たちが唯一、同じ空間を共有できる貴重な場です。方言や城下町の足跡さがしなど、教室を離れ、身近に潜んでいた歴史の跡を知った時の興奮はたまりません。豊かな講師陣と初めて出会う異年齢の学生仲間たちとの温もりある授業は魅力的です。

太田　静 さん

福井学習センター

JR福井駅より歩いて3分。福井学習センターは駅に隣接したビルの7階にあります。工業生産を主体とした県の実情に合わせて、ユニークな面接授業が開設されています。又奈良時代より越前以北は“こしの国”と呼ばれ歴史的にも重要な位置にありました。又住みやすさランキングで上位にあります、自然環境や食べ物に恵まれた福井で面接授業を受講しては如何!

夏梅　建一 さん

山梨学習センター

面接授業はいつも望むことが学べてワクワクします。最新の情報を得たい科目「医療の最前線」、学びたいと思ってきた科目「女性と仕事」、山梨をより知るための科目「活断層と内陸地震」等、月に1科目は受講しています。面接授業でできた友達の推薦による「色彩の科学」「宝石の世界」「ワインの基礎知識」や、新しく学ぶ外国語等楽しみは続きます。

雨宮　由美子 さん

長野学習センター

大好きなのに詳しく知らないワインのこと。今回は「ワインの基礎知識」を受講しました。ワインのスペシャリストで、世界からも高く評価されているワイン研究者の柳田藤寿山梨大学教授の講義は、バラエティーに富んで楽しく、しかも授業後には利き酒講座ありと、文字通りおいしい面接授業でした。ワインの産地の長野だからこその魅力ある授業だと思いました。

三ツ井　泰子さん

岐阜学習センター

「幕領飛騨の風土を科学する」を受講して

代官所の古文書資料からの講義は大変面白く、古き時代の政の記録の正確さ、科学的な目で検証している事等現代でも大いに参考にしなければならない。それ以上に先生が膨大な時間を費やし実地に尽く検証されている事に驚かされた。高山に居て浅学の身が恥ずかしくなった。高山では地域の宝物探しが始まっている。大いに参加し、郷土を楽しみたい。

苅屋　晃さん

静岡学習センター

静岡学習センターのある三島駅周辺は富士の湧水で知られている。増澤先生の授業は湧水史跡「楽寿園」の植生観察がサプライズであったり!講義は富士山や南アルプスの自然について語られ、南アルプスが世界自然遺産候補の一つとして有力視されている事実を知り、理由を学べたことは日本人、地元として誇らしく十分に楽しめました。

遠藤　浩二さん

愛知学習センター

南山大学の横山輝雄先生「科学・技術の歴史」の講義方式は、各コマの終わりに全員からペーパーによる質問等の提出を義務付け、それについて次の冒頭、先生が説明されるというものでした。真剣に授業を受けていないと書くことがなくなり大変であったが、しかし、まさに自分が現役の大学生としてそこに居るという実感が湧く面接授業でした。

新田　正人さん

三重学習センター

当学習センターの面接授業の魅力の一つは、郷土にゆかりの文学者や作品について受講できることです。これまで、芭蕉の生涯と俳諧について5回に及ぶ連続授業がありました。また、万葉集に詠まれた郷土の和歌の授業もありました。今後は、本居宣長や小説『潮騒』の作者三島由紀夫の文学など当地ならではの授業があれば魅力的だと思います。

萩　紀男さん

滋賀学習センター

私たちの滋賀学習センターは、琵琶湖と湖南アルプスの間の龍谷大学瀬田キャンパス内に有り、自然に囲まれた学習に集中できる環境にあります。大学の大きな教室で伸び伸びと教材を利用しながら教授陣の丁寧な講義でいつも満員になっています。また、彦根城下にある滋賀大学での近江商人を中心とする授業も珍しい資料を見せていただけると遠方からも沢山参加されます。

村西　宏さん

京都学習センター

京都学習センターでは、京都大学の附属研究施設を利用して、多彩な宿泊型のフィールドワークの面接授業が行われています。専門外と考えていたことが、後から繋がる経験をしたり、新たな視点をいただくことができました。また、源氏物語や平家物語の舞台となった京都での面接授業は、自らその場所を訪れることで、印象深いものになりました。

築出　昌和さん

大阪学習センター

まいどーーっ! いつも元気いっぱい和気あいあい楽しい雰囲気が大阪の面接授業の特徴です。数ある授業の中でも特筆すべきは『漢字学』でしょう。他の大学に比べても充実した高度な内容で、まさに温故知新、文字を見つめることにより古代日本人が世界の文化を受け入れ、習俗がどう変化していったかを夢想し、忘我しては時の経つのも忘れてしまいます。

早瀬　憲一さん

兵庫学習センター

兵庫学習センターの面接授業は雰囲気の良いセンターで人気があり過ぎて、それだけ競争率が激しくなるのであまりアピールはしたくないのですが、自分が是非共受講したいと思っている科目で、「日本列島の生い立ちと災害・環境」、「城郭の歴史と姫路城を学ぶ」等、人気のある授業が直接聞けるので時代の的を得ていると思います。皆さんもぜひ参加してください。

黒田　伊織さん

奈良学習センター

面接授業は、多くの刺激を受け自己啓発の場となっています。宇宙物理学で①宇宙の膨張と始まり、②太陽以外の1000億を超える恒星の周りには、地球と同じ条件(距離・大気組成等)の惑星が存在し、生命の存在が近い将来に見つかる可能性は確率上高いこと。又「邪馬台国はどこにあったのか」を歴史学で受講し、視野の広さ視点の高さを身に付ける重要さを改めて教えられました。

井上　満広さん

和歌山学習センター

和歌山特産「梅」の話、紀伊風土記の丘での古代ロマン体験、美術館での絵画修復作業の見学など、参加した授業はどれも魅力的な企画でした。中でもマレーシアへの研修旅行は、ホームステイや大学での授業を通して、異文化を肌に感じた密度の濃い4日間でした。全国から参加された16名の学友とのふれあいもまた大切な思い出となっています。

中村　博美さん

鳥取学習センター

「自然の中を歩く(3)」に受講して　参加者の平均年令69才。誰が？みんなで笑い飛ばして、ブナ林を歩く。黄色に色付いたブナ林は綺麗だ。木漏れ日がキラキラと輝く。仰ぎ見る北壁の大山は荒々しく人を寄せ付けない酷しさが有る。深まりゆく秋、落ち葉が舞う。そんな大自然の中、各地から集まった学友と登山する。みんな元気だ。話も弾む。とても楽しく、こんな機会に恵まれたことに感謝する。

福安　幸枝さん

島根学習センター

「森鷗外－その時代と文学」(山崎一穎先生・清田文武先生)の面接授業は森鷗外の生誕地、津和野の森鷗外記念館で行われた。作家と軍医という二つの人生を生き、「石見人、森林太郎トシテ死セント欲ス」と締めくくった、鷗外の人生をたどる講義で、「人は人と出会って人となる」ことを実感した。講義と記念館の展示を組み合わせた興味深い講義であった。

大庭　洋子さん

岡山学習センター

面接授業時間割表の学生へのメッセージに誘われ「英文読解」を受講した。講師の厳しく且つユーモアのある独特の授業の進め方に感動しながら授業を終えて、英語に対する知識が私に豊富だったら、もっと有意義な二日間であったと感じた。授業を視聴という方法で学んでいる私にとって、面接授業は直接講師に質問が出来たり他の学生との交流を通して、より強く学ぶ意欲と学生としての意識を高めてくれる大切なものである。

山崎　康子さん

広島学習センター

「広島県の民俗芸能」を受講。民俗芸能とは何か?の切り口で始まった講義は、神楽・田楽・風流の3本柱を中心として、それらの歴史的経緯を映像を駆使して説明するもの。次第に私の幼少期からの体験が呼び戻された。内容は県内のみならず全国で古くからに続けられている多彩な行事へと展開。講義は感動のうちに終わった。

これだから、面接授業はやめられない。

竹本　義邦 さん

山口学習センター

「金子みすゞ」「香月泰男」「宇部の野外彫刻」など地域に根ざした科目では、郷土愛が育くまれたような気がしました。一番印象深かった授業は、「レゴ・ロボットの制作と制御」で、三人一組になって各パーツを相談し、手を動かし、試行錯誤しながらロボットを作りあげていきました。授業の中で人間関係がつくられ、受け身の授業が多いなかで大変新鮮さがありました。

都野　善光 さん

徳島学習センター

「心理と教育」コースの学生にとって、徳島学習センターの面接授業は魅力的です。徳島には、臨床心理士指定大学院(第1種)を設置する3つの大学があり、そこから講師の先生が派遣されています。良い環境の中での面接授業は、高度でバラエティーに富んでいます。また、食べ物がおいしい徳島で、郷土料理のそば米雑炊などをご賞味ください。

武知　幸恵 さん

香川学習センター

初めて面接授業で「英会話入門」を受講しました。最初は緊張しましたが、先生は初心者にも解るようにゆっくりと発音して下さるので、聞き取り難かった単語もだんだんと聞き取ることが出来るようになりました。英会話は「面接授業」が一番です。授業の最後の時、先生ご持参の手作りクッキーと紅茶で雑談しながらの一時がとても心に残っています。

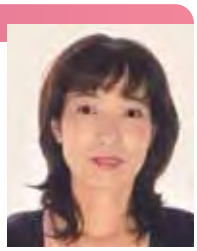
北野　芙美子 さん

愛媛学習センター

正岡子規の故郷である松山ならではの面接授業「正岡子規」を受講しました。松山市立子規記念博物館・館長の竹田美喜先生がユーモラスに解説して下さり、二日目には博物館の見学学習もありました。子規の生き方に触れ、生きる力を与えられた気がします。学生の皆さん、文学の町松山にある愛媛学習センターでご一緒に学んでみませんか?

井上　薫 さん

高知学習センター



私は、認定心理士資格取得を目指しており、6月に高知学習センターで行われた星薫先生の「心理学実験1」に参加しました。グループに分かれて実験をし、そのデータをパソコンに入れて分析していきました。とても充実した2日間でした。数多くの面接授業に出向くたびに、友達から「小さな芸能人」と言われながらも楽しく参加しています。

西室　真里 さん

福岡学習センター

放送大学への入学を決めたのは、日本語講師の資格習得後に有利だと聞き大学卒業を目指す為に入学致しました。ですが、科目も300と色々な分野が有り学びたい事が多く興味が尽きません。福岡学習センターでの面接授業は、博物館・美術館などでも行われ縄文・弥生土器や実際に使用した農具又、貝塚など当時の生活の様子を知る事が出来る展示があったりと、充実した時間が過ごせています。

江口　綾子 さん

佐賀学習センター

『葉隠ー武家随筆を読むー』の面接授業は面白かった。「武士道というは死ぬことと見付けたり」のくだりは、その後に続く文言を読めば、常住死身として**生きる**事の大切さを教えてくれる。山本常朝が何を言いたかったか、少しでも理解して生きる糧としたい。俳句で始まり俳句で終わる、お洒落な構成の、文学センス溢れたこの本を皆さんも読んでみてください。

森　昭生 さん

長崎学習センター

環境問題を中心に沢山の面接授業を受けました。ありがたいのは放送授業に比べ面接授業の方が受講する際の心構えが違うため緊張感があり、強く印象に残ります。それに講義中であっても疑問を感じたら関連事項を含めて即座に質問ができることが面接授業の魅力です。

市川　徳夫 さん

熊本学習センター

熊本の地を活かした授業が多いことです。『ハーンと漱石の遺産を訪ねて』では、漱石が教鞭を執った五高記念館の当時のままの教室での講義、ハーン『夏の日の夢』の舞台となった浦島屋がある三角西港周辺での授業、先生と一緒に弁当を食べながら港を眺める等、人物・作品に想像を膨らませる二日間は贅沢でした。現地現物での授業は最高、受けてみなっせ。

堤　宏一郎 さん

大分学習センター

別府大学名誉教授・井上富江先生の「フランス文学への招待」を受講しました。

中世フランスの楽器や詩歌の紹介、ルーブル美術館に保存されている浦島絵巻から日仏文学の比較、「トリスタン物語」「荷車の騎士」等の舞台となった土地を訪問された時の内容を交えた授業に、現地の情景を思い浮かべながら小説を読むことの面白さを楽しく学んだ2日間でした。

野々下　順一 さん

宮崎学習センター

古事記編さん千三百年の年ですが、日向神話の伝承地を巡る面接授業はロマンたっぷりで、心は神代の世界へ。

西都原古墳群史跡での講義も古代日向の文化と古の息吹を味わえます。

またバーンスタインホール、パイプオルガンのある県立芸術劇場で行われる授業は、宮崎ならではともいえる贅沢な学習時間が過ごせ、毎年定番ともしたい面接授業です。

那良　則人 さん

鹿児島学習センター

2010年10月アメリカのBellevue Collegeで開講された「English in シアトル」に25人で短期留学。苦手な英語に体当たりの挑戦でした。空港の入国手続や午前中の楽しい授業、午後の学内外での英会話実践等は緊張の連続でしたが貴重な体験で、生涯忘れられないものとなりました。帰国後、参加学生を中心にアメリカ文化研究会を立ち上げ、充実した活動を続けています。

宇都　良子 さん

沖縄学習センター

普段いかに見過ごしている事が多いかに気付かされた科目が「沖縄の民間信仰」(山里純一琉球大学教授)。身近にある石敢當(イシガントウ)(魔よけ)、紫微鑾駕(シビランカ)(建築儀礼)、ウティンジカビ(法事)、現実的な問題から神への信仰、沖縄の人々の歴史を振り返るという講義内容。三線(サンシン)を取り入れるなど展開に工夫が感じられ充実感を味わった。著名な先生方との出逢いは宝です。

志村　京子 さん

教育に役立つICT技術

コーディネーター:
柳沼 良知 准教授(情報工学)
川合 慧 教授(情報科学・計算機科学)
加藤 浩 教授(教育工学)
近藤 智嗣 准教授(教育工学)

平成25(2013)年度から、教養学部の5つのコースに「情報コース」が新たに加わります。そこで、今回のコース別座談会は、情報コースの4人の先生方にお集まりいただき、コースの概要をお知らせいただくとともに、「教育に役立つICT技術」というテーマでお話いただきました。
※本文中は敬称略とさせていただきました。

♪誰が風を見たでしょう?♪

柳沼　新たに「情報コース」が開講します。その広報の意味も含めて座談会を開きたいと思います。まず、川合先生、情報コースの概要についてお話を。

川合 慧 教授

川合　私は07年に放送大学に赴任したとき、自分の紹介ビデオの中で童謡「誰が風を見たでしょう?」を歌いました。その意味は…風も情報も目に見えない。けれど風が「木の葉を振るわせる」ように情報も有用なものだと言いたかったのです。情報とは、自然界に存在するものではなく、人間が考えた概念です。そのため人間のあらゆる活動分野に関係してきますが、そのために却って情報を独立したものとして意識する状況になかなか到らなかった。風が木々の間を縫うように、情報もあらゆる学問に横断的にわたっています。そんな情報をきちんと独立した学問の対象として捉えよう、というのが「情報コース」設置の動機です。幸い、放送大学には情報学の専門家、情報の教育への適応をこれまで研究されている先生方がたくさんいらっしゃいますので、十分な成果が得られると思います。「情報」とは何か—その概念を明確にし、情報技術が人間・社会・環境といったいろいろな分野でどのように応用されているか等、幅広い視点から情報の本質に迫ります。

e-Learning、m-Learning、3D化で新たな「学び」の創造へ

柳沼　ありがとうございました。ただ今、「情報の教育への適応」の話がありましたが、近藤先生は放送大学におけるそのプロジェクトリーダーを務めておられます。これまでの研究成果や今後それがどのように役立つのか、少しご紹介ください。

近藤　ICT活用・遠隔教育センターが推進しているe-Learning、UPO-NETから話を始めましょう。UPO-NETというサイトには、大学の講義を受講するのに必要な基礎教育として例えば、数学・物理などの高校までの内容や、実務的な教育としてパソコンの操作や英会話などたくさんの教材がe-Learning教材として用意されています。放送大学の学生の方は、キャンパスネットワークから受講できます。これらのe-Learning教材は、LMS（学習管理システム：Learning Management System）で管理されていますので、自分がどこまで学習したかがわかるようになっています。学習の続きを自宅でも学習センターでも効率的にできる訳です。そしてこのe-Learningは、スマートフォンやタブレットPCなどによってm-Learning（携帯端末による学習）としても可能です。その最大の特徴は「いつでもどこで

も」、つまり通勤通学途中でも学習できるようになったことです。ただ、学習を中断しなければいけないこともあります。そこで役立つ栞機能とかメモ機能など、そして画面の小さい携帯端末向けの画面拡大機能などの開発に注力されている先生もおられます。さらに、印刷教材の電子書籍化も検討されており、映像や3Dなどのマルチメディアとの連動が期待されます。これらのm-Learningや電子書籍は、学習者の多様な学習スタイルに対応できる可能性があると考えています。また3Dの効果的な利用も検討しています。例えば脳の構造 ―印刷教材ではその複雑な構造を表現するのには限界があります。また放送でも見たい方向からは見ることができない、といった制約がありました。それを改善できるのが3D技術で、マウスをドラッグするなどして見たい方向から見ることができます。またAR/MR…これは拡張現実感（Augmented Reality）、複合現実感（Mixed Reality）と呼ばれるものですが、例えば**写真1**にあるとおり、空間図形を手元で切ったり合成したりといったことができます。**写真2**は印刷教材を開くとそのページに合わせた立体が浮かび上がるというもので、このような教材づくりのための教材作成ツールも開発しています。**写真3**はMR技術を博物館の展示に応用したものです。標本にCGを融合させることによってより分かりやすい解説システムとなっています。最後に、調査研究ツールとしてREAS（リアルタイム評価支援システム：Realtime Evaluation Assistance System）について。卒業研究とか修士論文のためにアンケートを取る機会は多いと思いますが、アンケートの作成から集計までWeb上でリアルタイムに行えます。面接授業の冒頭にアンケートを取って瞬時に集計、その結果に合わせて内容を変える、といった使い方もできます。以上ですが、情報コースの特徴を一つ付け加えるとしたら、これらの教育システム自体も研究テーマになるという点です。つまり、学生の方々も最先端の研究をする必要があるということです。

[写真1]マーカー上や特定の画像上に3DCGを表示するのが一般的に普及しつつある

[写真2]印刷教材のイラストや文字の上に立体的な脳を表示するようなことも可能

[写真3]MR技術で実物の標本とCGを融合

川合　すでに実用化されているもの、開発途中のものとさまざまですが、70年代にはCAI（コンピュータ支援教育：Computer Assisted Instruction）がもてはやされました。オーサリングの部分が決定的に弱く、一部マニアのものだけで終わっています。

加藤 浩 教授

加藤　e-Learningではインターネットを利用することで、CAIでは困難であった教材のメンテナンスが容易になりました。そして重要なのは、CAIでは孤独になりがちだった学習者が、インターネットを介して相互に結びつくことによって学習へのモチベーションを維持できるようになったという点です。つまりCAIとインターネットが結びつくことによって学習環境が変わり、今日のe-Learning隆盛の礎となりました。

ICT技術導入へ新たな一歩を。そして膨大なコンテンツの有効利用を

柳沼　名古屋商科大学やサイバー大学ではモバイル端末を利用したm-Learningが進んでいます。放送大学では、一つのプラットフォームにしてそういうものを利用するというのが難しい環境にあるように思いますが…。

川合　確かに、年代層の分かれている放送大学の学生の方々に向けてそれらをどう導入するかは難しい課題です。新しいことをすると、不公平じゃないか、という声も出てきます。

加藤　今は技術がどんどん開発されている過渡期です。タブレット上やパソコン上でマルチメディアを表示する技術も2、3年位で変わりますが、やがて一つの解に向かって収斂されると思います。そこへ向かって、今から少々冒険でも一歩踏み出すという覚悟は必要ですね。

川合　ICT技術は日進月歩、常に過渡期だとも言えます。一ヶ所に落ち着いたらできる、という技術は結局活かされません。ですから、同じ踏み出すなら長いスパンを見据えてやらないと。

柳沼　技術革新に柔軟に対応しながら、なるべく広い学生の方々に役立つものを考えて行くということでしょうか。或いは、ターゲットを絞って…例えば情報系科目の学生の方ならそういうプラットフォームを活用できます。或いは障がいのある方に絞れば技術は役に立つと思います。情報コース新設を機に、先生方と学生の方々が一緒になってあるべき方向性を模索することは有意義なことだと思います。

近藤 智嗣 准教授

近藤　放送大学の強みは何よりコンテンツが膨大にあることです。完成したものだけでなく、ロケ映像、パターン、イラストなどの素材レベルで考えるとさらに膨大になります。現在は、印刷教材と放送番組は並行して制作されていますが、これらを一元管理し一貫した制作工程をICT技術によって実現できればより効率が良く、有効に使えると思います。製造業で言うPDA（Product Data Management）やPLM（Product Lifecycle Management）の実現です。

柳沼　この膨大なコンテンツというのは他大学にはありません。これまでは放送がメインでしたが、これからはインターネットを介したインタラクティブなものにするにはどうするか、といった視点が重要になってきます。そこが整理されればコンテンツの再利用はもっと進むでしょう。電子書籍を作るにしても、当然コストの問題は出るでしょうが、放送は放送だけ、印刷教材は印刷教材だけ、と閉じるのではなく、製作工程をトータルに捉え「再利用」をキーワードにすれば、多少は緩和されると思います。

川合　これまでの枠組みを変えるのは大変なことですが、教材を統合的に作る試みを始めるといった“アタマ出し”ができるといいですね。私の番組でも、制作時期のずれから印刷教材にゲストの話が入れられないという不都合が起きたりしています。情報コースの先生方で統合的な視点に基づいた教材作りができれば、起爆剤になりえます。

柳沼　その時、一緒に考えていただきたいのが著作権の問題です。もともと放送用に作っていたものをOCW（オープンコースウェア：OpenCourseWare、講義をインターネットで無償公開すること）にする段になって問題が発生しています。最初からその可能性のあるものは省いて作るとか、先生方の有志で工夫すれば…。他のコースの教材は、外部のイラストレーターが描いたきれいな絵を使っていますが、情報コースの先生方はパワーポイント等を使って自前で作っています。手間はかかりますが、著作権の問題は生じにくく、再利用しやすいのでは。

加藤　著作権の問題は法律なので一朝一夕にという訳にはいかないでしょうが、私たちが関われることは何とかして、新たな教材作りに歩を進めたいですね。ただ、はっきりしているのは…電子書籍を作って、映像も入れて演習問題も入れて…となると放送は要らないってことになりますね。（笑）

学生が互いに よりよく学び合うために

柳沼 良知 准教授

柳沼　加藤先生は、学習支援システムを多く開発されています。ご紹介いただけますか。

加藤　私は協調学習というものに焦点を当てて開発してきました。放送大学の学生の皆さんは、基本的には「自宅で一人で」学ばれています。そのため、長く学習を続けていくためには高い自己制御能力が求められます。また、放送大学への帰属意識がなかなか育たないという側面もあります。そこでインターネット技術を利用して学習者同士が協調して学習を進めていければ、との思いでいくつか開発しました。その一つ、ProBoはPBL（プロジェクトベースドラーニング：Project Based Learning）をサポートするためのグループウェアです。PBLとは、学習者がチームを作り、定めた目標に向かって協力して課題解決に取り組むという学習スタイルです。が、ややもするとスケジュールを忘れたり分担された仕事の荷が重す

ぎて脱落するケースも出てきます。そこでProBoを使えば進捗状態やスケジュールの共有、ファイル共有、メッセージ交換といったものがWeb上でいつでもできます。教育用ですので機能はシンプルに、そして他の人がどういうことをやっているか、どういう困難にぶち当たっているかがわかるようなるべくオープンなものにして、PBLを支援しています。このシステムは研究室運営や、修士課程でのWeb会議システムを用いた遠隔ゼミへの応用も考えられます。

次に開発したのがKneading Boardです。パソコン画面上のカードに、学習者がアイデアや意見を書き込み、カード同士を矢印（→）で結んで意見交換したり、さらに新たなアイデアの創造したり、といったことを支援するツールです。3つ目がPeer Assessment Board、学習者間の相互評価システムです。「教えることを通して学ぶ」は近年非常に効果があると注目されています。そこで学習者同士が学習の成果物をWebを介して相互に評価し合い、そこからフィードバックしてさらに学びを深めるというものです。このような学習支援システムを通して、学生の方々がお互いに学び合うことに、そして、そこから放送大学の学生としての帰属意識を高めることに貢献できたらいいな、と考えています。

Kneading Board

柳沼　一方向になりやすい放送をカバーする学習支援システムですが、インターネットの双方向性という特性はこれからますます重要になってきますね。

加藤　パソコンに何か不具合が生じた時、とりあえず周りの人に助けを求めますね。いきなりヘルプデスクへ、ということはありません。それをモデルとして、放送を見てよく理解できないときに、とりあえず学習者同士で教え合うといったWeb上の場があってもいいと思います。

柳沼　そういう意味で言うと、例えば面接授業。お互いに顔を合わせているのでネット上のコミュニティは作りやすいですよね。そこで互いに教え合うような、リアルタイムの支援ばかりでなく、アフターフォローし合えるような場があるといいですね。さて、時間が来てしまいました。本日は「教育に役立つICT技術」についてその一部しか紹介できませんでしたが、このような学習支援システムが放送大学の「学び」の質向上にますます役立つことを期待して終わりとしたいと思います。ありがとうございました。

column

「字幕」には夢がある　広瀬 洋子 教授（メディア教育・社会人類学）

私の研究テーマは、高等教育における障がい者支援と情報のアクセシビリティです。障がい者、留学生、高齢者など多様な学生に、情報技術を使って、より便利に、より密度の濃い勉強方法を提示したいと思っています。

例えば字幕。米国ではすべてのTV放送に字幕がついており、聴覚障がい者のみならず、移民の英語学習にも役立っています。日本でも総務省は2017年までにNHKに100％の字幕化を求めております。

放送大学では、現在TV授業の約30％に、受像機のボタン操作で出したり消したりすることができるクローズドキャプションがついています。一般学習者からも授業がより理解できると好評です。現在、年間18科目程度が字幕化されていますが、生産性の向上、コストの削減は喫緊の課題です。

障がい者支援プロジェクトでは、2012年夏にインターネット上で複数の人が好きな時間に、好きなだけ、字幕を入力し、システム上で自動的に編集する協働字幕編集システムの応用実験に着手しました。音声入力システムを上手に利用すれば、高速で字幕入力が出来ます。放送大学の映像授業教材は、質、量ともに世界に誇れる内容です。自動翻訳システムを利用すれば多くの言語に変換することもでき、日本に関心を持つ世界中の人々に授業を届けることも夢ではありません。

また留学生の日本語習得にも大きく役立ちます。字幕が付与されれば、大量の映像の中から取り出したい映像を検索することも簡単になります。インターネット、携帯端末で字幕が当たり前のように配信される時代はもうそこまで来ています。ニーズに合わせて、何通りもの字幕を配信することさえ可能なのです。字幕の未来には、沢山の夢があるのです。

アジア公開大学連合(AAOU)年次大会 千葉・幕張メッセにて開催！

放送大学長 岡部 洋一

開会式挨拶をする岡部学長

2012年10月16日から18日までの三日間にわたって、アジア公開大学連合（AAOU）年次大会が幕張メッセにおいて放送大学主催によって開催された。放送大学がこのような大きな国際会議を主催するのは、開校以来始めてである。

放送大学も、国内に閉じていてはいけない、これからは国際的な貢献を果すべきであるという石前学長の決心により開催に至った。AAOU役員会で主催校として認承された当初、東日本大震災の影響もまだ残っており、特に外国人が原発の被災の影響を恐れて参加してこないのではないかと開催をかなり迷ったという経緯があったが、21カ国から170名弱の外国人、日本から120名余、計300名弱の参加があり、思い切って予定通り開催してよかったというのが卒直な感想である。

世界各国から参加者が集まった開会式

AAOUは名前のとおり、アジアの公開大学の連合が開く国際会議であるが、アジアには世界のメガユニバーシティ（学生数10万人以上の大学）の90%以上が存在しており、正に成長著しい地域である。そういったこともあり、アジア以外にも欧州、北米、アフリカなどからの参加があり、議論が弾んだ。特に最近進展の華々しいMOOCs（マス公開オンライン授業）などのOER（公開教育素材）の方向性や、携帯端末の教育に対する重要度の高まりなどが議論され、我々日本人にとっても、これからの遠隔教育の方向を学ぶことができた。

大会運営も多くの教職員に支えられ、極めて順調に進行され、外国からの参加者からは、さすが日本だという評価をいただいたのが、最上の喜びである。

日中韓セミナー開催！

放送大学副学長 吉田 光男

9月17日、韓国ソウルの韓国放送通信大学校（KNOU）で、第4回日中韓セミナーが開催され、放送大学からは岡部学長、大橋・井口両准教授、吉田の4人が参加しました。

今回は「知識ネットワーク社会」というテーマの下に、公開遠隔高等教育の未来像について各大学の経験と知恵を交換するというものでしたが、KNOU創立40周年の記念行事の一環として開催され、完成間もないKNOU新本館の完成お披露目もかねていました。台風がソウルを直撃して外は大嵐という中での開催という、記念的な集まりとなりました。

午前中のジョン・ダニエル卿とキム・グワンジョ氏（ユネスコ）による基調講演につづき、午後は2つのセッションが行われました。第1セッションでは大橋理枝准教授が‘Collaboration Programs at OUJ: Credit Transfer Arrangements and Alliance Schools’と題して、放送大学における単位互換協定について報告し、第2セッションでは井口篤准教授が、‘OER: Hopes and Fears’と題して、公開教育資源に関する放送大学の現状と問題点について報告しました。お2人とも、八面六臂の大活躍に、放送大学の実力を東アジア全体に鳴り響かせました。

翌9月18日は、希望者によるKNOUの施設見学が行われ、歴史館でKNOUの歴史を学んだ後、スタジオを見学しました。たまたま地方学習センター（KNOUでは地域大学と呼ぶ）と結んだウェブ・カメラによる授業に入り込むことができ、担当教授から「ただいま外国から見学の方々が入ってきました」と紹介されるという貴重な体験もすることができました。色々な意味で実り多い集まりでした。

Tohoku Report 2012

心を打たれた「鎮魂歌」

社会と産業コース 教授 御厨 貴

3.11から、早や1年半余りになる。復興構想会議、そして復興推進委員会と国難ゆえに引き受けた任務にむかう時、いつもその原風景を思い出す。被災地を現実に見てまわった時の感慨ももちろんあるが、それ以上に心に浮かぶのは、ある詩人の詩だ。

その人の名は佐々木幹郎。私は震災から2週間後、大竹昭子に誘われて、『ことばのポトラック』というイベントに参加した。3.27のことだ。「鎮魂歌」という彼の詩の朗読を聴いた瞬間に、全身を何かに打たれたような衝撃が走った。

> 人は揺れ
> 大地は揺れ
> あらゆるもの　陸の奥深くへ流れ込み
> 倒れこみ
> 閉じ込められ
> 冷え
> しんしんと冷え
> 恐ろしきもの　空から降り
> 降り積もり
> 大地に染み込み
> 光を求めるすべての生きもの
> 生命の穂先が震えて
> 立ち尽くし
> 水を求め
> 嘆く声を求めて
> 白い月が皓々と
> 森の上にあがる

詩はまだ続く。しかしこの時の衝撃がいつしか心の底に沈殿したに相違ない。それから2ヵ月後、6.25に復興構想会議の『復興への提言』の起草者として綴った「前文」は、こう始まる。

> 破壊は前ぶれもなくやってきた。2011年3月11日午後2時46分のこと。大地はゆれ、海はうねり、人々は逃げまどった。地震と津波との2段階にわたる波状攻撃の前に、この国の形状と景観は大きくゆがんだ。そして続けて第3の崩落がこの国を襲う。言うまでもない、原発事故だ。一瞬の恐怖が去った後に、収束の機をもたぬ恐怖が訪れる。かつてない事態の発生だ。かくてこの国の「戦後」をずっと支えていた“何か”が、音をたてて崩れ落ちた。

散文的な『提言』全体の構造の中に、このような形で“詩的リズム”を浮かび上がらせ、これを朗読することによって、首相官邸の会議場はあたかも“朗読会”の様相を呈した。

ここまで確信をもって『提言』を構成できたのは、佐々木幹郎の「鎮魂歌」との出会いがあったればこそだ。震災から半年後、ようやくそのことに気がついた。そこで11.23、佐々木が開いた今一度の『ことばのポトラック』において、率直にそのことを述べた。

佐々木は「彼の書いた『提言』の序文がいかに詩のリズムに近くなったか、そうならざるを得なかったのは第一回『ことばのポトラック』を聞いたからだ」と、私が告白したことをきちんとまとめてくれた。証言として残せてうれしい。

参照:大竹昭子編『ことばのポトラック』(春風社、2012年)

遠隔学習のためのパソコン活用（'13）

放送大学教授（ICT活用・遠隔教育センター） 三輪 眞木子　放送大学准教授（人間と文化） 秋光 淳生

三輪 眞木子 教授

秋光 淳生 准教授

学習にパソコンを活用するためには、単に文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの基本的なソフトウェアやインターネットを使うことができるようになればよいわけではありません。これらのソフトウェアを使って成果物、すなわち新たな価値を生み出す訓練も必要です。この授業では、パソコンの初心者が電子メールを使いこなし、インターネットや図書館を使って調べ物をし、表計算ソフトウェアで図表を作り、調べた結果や図表を文書作成ソフトウェアで統合してレポートをまとめ、その成果をプレゼンテーション・ソフトウェアを活用して発表するという流れに沿って学びます。また、パソコンやインターネットを使いこなすために必要なセキュリティについての知識や心構えも取り上げます。この講義を受講すると、学習成果をレポート作成や卒業研究に活かせるだけでなく、仕事や生活でもパソコンやインターネットを効果的かつ安全に活用できるようになります。なお、この授業の通信指導問題への答案は、インターネットによる提出が必須となっています。

睡眠と健康（'13）

滋賀医科大学特任教授（放送大学客員教授） 宮崎 総一郎　滋賀短期大学学長（放送大学客員教授） 佐藤 尚武

宮崎 総一郎 教授

佐藤 尚武 教授

現代の私たちの生活スタイルは夜型化し、睡眠時間は確実に減少しています。日の出とともに起きて、昼間に活動し、日が沈むと休息をとるというリズムが、本来の私たちの身体にある遺伝子のリズムです。しかし、この"眠らない社会"という状況のもと、自然の昼と夜の環境とは異なった明暗サイクルで生活する機会が増えています。このような生活環境が身体のリズムを狂わせ、正常な睡眠がとれない人々の増加を生み出し、生活習慣病や産業事故の原因となっていることが明らかになってきました。睡眠学は、眠りと脳の謎を解き、眠りを守って、健康で豊かな暮らしと社会をつくるために、「睡眠科学」、「睡眠医歯薬学」および「睡眠社会学」の3つの観点から構成されています。本年度よりあらたに開設される、「睡眠と健康」を通じて、学生の皆さんの睡眠に対する理解を深めるだけでなく、広く社会に睡眠の役割り、大切さをお伝えしたいと考えています。

経済学入門（'13）

同志社大学教授（放送大学客員教授） 西村 理

西村 理 教授

経済学入門の定番はミクロ経済学とマクロ経済学です。分析対象ですが、前者は個々の財・サービスや価格であるのに対して、後者は全体量・集計量であるGDP（国内総生産）や物価です。一見したところ別々の分野を扱っているようですが、分析目標は同じです。すなわち、限られた希少な生産資源をいかに効率よく利用するかがテーマになります。

本講義は3部構成になっています。第Ⅰ部では、アダム・スミスからケインズまでの経済学の流れを縦糸に、競争市場の役割と市場の失敗について述べます。ミクロ経済学に該当する部分です。第Ⅱ部では、マクロ経済学で取り上げるGDPに関する内容を述べます。ケインズ経済学が主になります。そして、第Ⅲ部では、現代経済学がテーマとする企業組織の特徴や企業の社会的責任（CSR）、現代の雇用問題、環境問題について触れた後、21世紀の経済社会が目指す「ゆたかな社会」のあり方について、私なりの考え方を最後に披露しようと思います。

英語の軌跡をたどる旅('13)
—*The Adventure of English* を読む—

井口 篤 准教授

寺澤 盾 教授

放送大学准教授（人間と文化） 井口 篤　東京大学大学院教授（放送大学客員教授） 寺澤 盾

英語の読解力はいったいどのようにして伸ばしたらいいのでしょうか? この難問には学生のみならず教師も頭を悩ませています。もちろん万人に効く処方箋はありません。しかし、英語という言語の成り立ちについて知識を深めることも一つの方法足りうるでしょう。「スカート（skirt）」と「シャツ（shirt）」の語源が同じであることはご存知でしょうか?これを聞いて、「そんな馬鹿な」と思わずに、「どうしてなのだろう?」と思った方は、ぜひこの授業をとってみてください。本講義で、北海に浮かぶブリテン島を発祥の地とするマイナーな言語であった英語が、今では言わば「世界語」となった波瀾万丈の道のりについて英語で読んでみることで、必ず皆さんにとって驚きの発見があるはずです。そしてその発見の連続が、英語を読むことへと皆さんをさらに駆り立てるはずです。私たち二人の講師が、1500年の時空を超えた「英語の軌跡をたどる旅」に皆さんをご案内します!

国際経営('13)

原田 順子 准教授

洞口 治夫 教授

放送大学准教授（社会と産業） 原田 順子　法政大学教授（放送大学客員教授） 洞口 治夫

国際経営はそもそも学際的な分野で、「国際経営学部」を有する大学があるように、学ぶべき範囲が極めて広いものです。その結果、教養学部において全15回の教育を行う場合、どこに重点を置いた内容にするか、教師の選択の幅が大きい科目と言えるでしょう。

この講義は現代の国際経営を理解するために必要な基礎的な事柄を中心に解説しています。グローバル化が深化する経済動向、国際経営の主要理論の流れ、国際化の類型、国際金融の知識、国際会計の問題、人的資源の課題、行政の役割等を丁寧に説明することを目指しました。この授業の企画段階では、事例研究を多く取り入れる案も検討されました。しかし、ビジネス環境の変化の激しさが増す今日であるからこそ、理論を含む基礎的な事柄や論点を学習することが重要であるという想いに至りました。企業の国際化の様相はビジネス環境にともない変化します。読者がその変化の動向を分析するとき、ここで得た知識が思考の助けになれば幸いです。

日本近世史('13)

杉森 哲也 教授

放送大学教授（人間と文化） 杉森 哲也

この科目では、日本の「近世」という時代について論じます。近世というのは日本史の時代区分の一つですが、一般にはあまりなじみのない言葉かもしれません。しかし、おおよそ16世紀後半から19世紀後半までの三百年間、安土桃山時代から江戸時代と言い換えれば、多くの方はこの時代のイメージを容易に思い浮かべることができるのではないでしょうか。現代に生きる私たちが、良きにつけ悪しきにつけ、日本の伝統的な社会のあり方や習慣だと感じることの多くは、この時代に形作られたものです。それゆえ現代社会を正確に理解するためには、現状分析だけでは不十分であり、近世史を学ぶことの意義がここに見出されるといえるでしょう。この科目では、近世史を政治史的通史ではなく社会の全体史として叙述することを基本的な視点としながら、近世という時代について論じたいと考えています。

力と運動の物理（'13）

放送大学教授（自然と環境） 米谷 民明　放送大学教授（自然と環境） 岸根 順一郎

米谷 民明 教授

岸根 順一郎 教授

本科目では、物理・工学系諸分野の基盤となる古典力学の内容を学びます。第1回～5回では、運動の基本法則と保存則の意義を体系的に学びます。これが力学の幹の部分です。第6回～10回では、原子・分子から宇宙空間に至る様々なスケールの現象に力学の成果を適用し、古典力学の使い方を習得します。枝葉を伸ばして力学現象の豊かさに触れる部分です。そして第11回～15回では、連続体の力学、運動の相対性といった新たな視点を加え、最後に作用原理という普遍的な原理に基づく力学の構成法（解析力学）を学びます。樹の頂に立って全体を見渡す部分です。ここまで来れば20世紀以降の現代物理学が扉を開けて待ち構えています。本科目を学ぶに当たって、「初歩からの物理学」「物理の世界」で扱った程度の力学の内容および数学（微分積分、ベクトル）の基礎を復習しておかれることを強くお勧めします。また、放送教材、印刷教材、通信指導問題が互いに補い合って科目全体が構成されていますので、これらをバランスよく活用してください。

問題解決の数理（'13）

放送大学准教授（ICT活用・遠隔教育センター） 大西 仁

大西 仁 准教授

この科目では、数学を道具として、意思決定問題を解決する方法について学習します。一口に意思決定問題と言っても、経営や行政の決定だけでなく、カーナビゲーションシステムにおける目的地までの最適経路の決定、効率的な作業日程計画、相性の良いペアの組み合わせ、スポーツにおける駆け引き等々、様々な問題が当てはまります。問題解決において数学の役割は、問題を数式でモデル化することと、モデル化された問題の最適解を計算することです。後者の手続きは複雑な場合もありますが、コンピュータソフトウエアを利用すれば簡単に解くことができます。一方、問題のモデル化は人間が行う必要がありますが、初歩的な数学だけでも多くの問題をモデル化することができます。したがって、数学を恐れず、簡単な数式による問題のモデル化を身につけ、計算をコンピュータに任せて、先に挙げたような多様な問題を解決できるようになるとともに、様々な手法の背後にある一貫した合理的な問題解決の論理を理解していただきたいと思います。

文学のエコロジー（'13）

放送大学教授（人間と文化） 宮下 志朗

宮下 志朗 教授

「文学」というと、どうしても「作品」「作家」を思い浮かべます。けれども、「作品」がいかなるプロセスで成立し、いかなる環境で流通・受容されたのか、「作家」のステイタスはいかなるものであったのかという問題を捨象してしまうのは、「文学」の理解にとって幸福なこととはいえません。こうした発想から、「文学のエコロジー」という科目を考えました。「エコロジー」を国語辞典で引くと、1「生態学」、2「自然環境保護」とありますが、本科目では、「写本」「活字本」「電子本」といった「作品」媒体や、「作品」「作者」「著作権」といった観念の歴史について考えます。これが「生態学」に相当します。そしてもうひとつ、グローバル化・サイバー化の荒波にもまれて、「文学」も変容を余儀なくされて、押されぎみの「古典」に代表される「文学」の「環境保護」を訴えたいという願いもあるのです。「放送教材」では、「古典」を講談師やアナウンサーの朗読で楽しむことができます。ぜひ、受講してください。

カリキュラム編成論('13)

田中 博之 教授

早稲田大学教職大学院教授
（放送大学客員教授）田中 博之

この科目は、大学院の教職科目を兼ねていることから、学校のミドルリーダーが自校のカリキュラム編成をするときに役立つ実践的な編成原理と編成手法を具体例とともに解説します。特に、次のような7つのポイントに焦点をあてて、理論と実践を関連付けながらお話しします。

①総合学力モデルに基づいたカリキュラム編成
②SBCD（学校を基盤としたカリキュラム開発）の思想と方法
③学校のカリキュラム開発と編成の裁量幅の明確化
④単元レベルでのカリキュラム開発と年間指導計画の連携
⑤R-PDCAモデルに基づくカリキュラムの開発と編成
⑥教科横断的なカリキュラム編成とこれからの総合的な学習の時間
⑦活用を図る学習活動や言語活動の充実等の最新の教育課題をふまえたカリキュラムの検討

講義の後半では、多彩なゲストをお招きして学校における実際の特色あるカリキュラム編成のあり方について対話形式で検討します。

本科目が、子どもの総合学力を育てる学校カリキュラムの開発と編成に真剣に取り組もうとしている方のお役に立てば幸いです。

日本の技術・政策・経営('13)

東 千秋 教授

柴山 盛生 准教授

放送大学教授
（社会経営科学プログラム）東 千秋
元国立情報学研究所准教授
（放送大学客員准教授）柴山 盛生

2011年の東日本大震災により発生した福島原子力発電所の災害は、飛散した放射性物質の危険と処理の困難さを私たちに目の当たりにさせました。平和利用である原子力発電の安全性が神話に過ぎなかったなど、市民の科学技術不信が増した時代にあって2012年のノーベル医学・生理学賞にiPS細胞を開発した山中伸哉京都大学教授が受賞したという明るい話題がありました。この革新的技術は、再生医療や難病治療、新薬の開発などへの利用を市民に期待させる反面、生命倫理上の難しい問題も含んでいます。今や、地球規模の環境問題や持続可能な人間社会の構築、生命倫理の問題など専門家任せにできない科学技術の動向に市民が的確に判断し対応しなければならないときになっています。この科目は、大学院社会政策科学プログラムの科学技術論や技術経営分野を専攻する学生を対象としたものですが、広く市民にそのような判断材料を提供すべく、現代科学技術の動向と未来社会を展望できる力を養うことを目的に企画されています。

アフリカ世界の歴史と文化('13)
―ヨーロッパ世界との関わり―

草光 俊雄 教授

北川 勝彦 教授

放送大学教授
（文化情報学プログラム）草光 俊雄
関西大学教授
（放送大学客員教授）北川 勝彦

アフリカ世界には、地中海、大西洋、インド洋に囲まれた大陸に、実に多様な自然、社会、文化が存在し、その歴史も多彩です。授業ではこの多様なアフリカ世界を理解するためにいろいろな視点からアプローチしていきます。アフリカは人類発祥の地であり、その長い歴史のなかでヨーロッパやアジアなどと密接な関係を築いてきました。宗教ひとつとってもキリスト教、イスラーム教など古くからその社会に根付き独特の発展を遂げてきました。経済的にもアフリカは世界に向けて緊密な関係を築き、ヨーロッパの大航海時代がアフリカとインド洋への関心から始まったことを思い起こすことは重要です。しかしヨーロッパの拡大と繁栄はアフリカに大きな犠牲をもたらしました。奴隷貿易、植民地化についても新しい研究を紹介しながら考えていきたいと思います。そして多くの独立国の誕生以降の現代アフリカについても見ていきたいと思います。

集団指導による論文作成

社会と産業コース・
社会経営科学プログラム教授　道幸 哲也

私の専攻は、社会法ですが、このゼミでは社会と法の関わりを考え幅広く研究しています。修士論文のテーマは多彩で、問題関心も多様です。2年後期になると個別テーマの指導が中心になります。それ以前は、基本的な社会科学の文献（たとえば、川島武宜『日本人の法意識』岩波新書等）を読みそれぞれ感想を述べ合います。年齢、人生経験、従事していた、もしくはいる仕事、社会観が異なっているので、大変おもしろい議論になります。若い学生だけの大学では想像できない世界です。また、2年前期までは、個別の論文報告も行います。特に、テーマの設定と具体的な研究方法・対象について議論を深めていきます。先生だけではなく、ゼミ生も活発な指導?をするので、共通の問題関心を持つことができます。私にとっても、社会実態や多様な発想法を知るよい機会になります。

なお、ゼミ指導で冷えたビールの話がでていますが、これはそれだけ議論が活発であることを意味します。

●学生の声●

学部生2名、院生12名が指導を受けています。ゼミは主に大学本部で、ほぼ毎月行われています。ゼミ生は首都圏在住のみならず、数名が遠く四国や北海道から熱心に参加しています。土曜日の昼過ぎから陽の暮れるまで数時間、熱い議論が続きます。特に院2年生の取組むテーマは、人権問題から北方領土まで幅広く、議論がつきることはありません。

道幸ゼミにて

気がついたら夜8時を回っていたこともありました。ゼミの後、疲れた脳みそを癒してくれるのは、もちろん冷えたビールです♪ ペンをグラスに持ち替えて、喉を潤しながら議論は夜更けまで続きます。9月に敢行した初めての「合宿」では、ペンよりグラスを傾けていた時間の方が長かったという噂も…？ いずれにしろ全員勉学に勤しみ、第二第三の青春を謳歌していることは、間違いありません。（河合直美）

ミクストリアリティで学ぶ

ICT活用・遠隔教育センター准教授　近藤 智嗣

博物館の展示は貴重な資料を間近に見ることができますので、放送大学の学習を深めるためにもいい機会になると思います。しかし、博物館に行ったけど、どこを見ていいかわからず、あまり学習にならなかったという経験を持つ方も多いのではないでしょうか。

私の研究テーマは、ICT技術を活用して効果的に学べるシステムやコンテンツを開発することです。その方法としてミクストリアリティ（Mixed Reality:複合現実感）という技術を使用しています。ミクストリアリティとは、現実空間と3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）を融合する技術の総称です。展示の場合の現実空間は、展示室や展示資料にあたり、そこに3DCGによる解説を融合できるということです。そのため、従来の解説メディアと比べて、どの展示のどの部分の解説をしているかが一目瞭然となるメリットがあります。

写真は、その展示例で、恐竜の骨格の特徴を解説するものです。手に持っているHMD（ゴーグル型のカメラ付きディスプレイ）を通して骨格標本を覗くと写真右上のように3DCGによる解説や生きていた時の姿が骨格に合わせて表示されます。

ミクストリアリティは、その他のいろいろな分野にも応用できます。特に複雑な構造の学習等、放送大学の教育にも応用していきたいと考えています。※ミクストリアリティの詳細は、TV科目「映像メディアとCGの基礎:第14回」をご覧ください。

愛媛学習センター所長　森 孝明

学　習　セ　ン　タ　ー　だ　よ　り

『いで湯と城と文学のまち』松山へおいでんかな、もし。愛媛学習センター

愛媛大学キャンパス内の落ち着いた環境

中四国では広島、岡山に次ぐ第3位の人口を有する松山市、その中央のお城山のすぐ北側にある愛媛大学キャンパス内に愛媛学習センターがあります。

愛媛学習センター建物

センターは、平成7年度に開設され、当時は愛媛大学附属図書館の片隅の非常に狭いスペースでしたが、平成15年8月に愛媛大学総合情報メディアセンターとの合築棟が完成して、それまでとは見違えるような立派な施設になりました。それから9年が経ちますが、まだまだピカピカで、学生さんが落ち着いて勉学に励むことができる環境です。

学位記授与式にコーラス隊を編成

センターには、現在12の学生団体があり、活発に活動しています。学友会である「にぎたつ会」をはじめ、英語・中国語・パソコン・俳句・茶道・フラダンスなどのサークルは、月1～3回、教室の空いた時間をやりくりしながら定期的な活動をしています。他にも、四国88か所めぐりをする「ハイキング米（コメ）クラブ」や、学生団体にはなっていないが、ドラッカーについて学ぶ「ドラッカリアンの会」などユニークな団体もあって、学生生活をより楽しく有意義なものにしています。さらに今年度からは、学位記授与式の時にコーラス隊（約20人）を編成し、そのリードにより皆で高らかに学歌を歌っています。センターとしてもこうした活動を支援すべく、にぎたつ会や同窓会役員、各サークル代表者との懇談会を開き、要望や意見を聴いてセンター運営の改善に努めています。

学位記授与式･学歌合唱

つどい後の学生交流パーティ

地域を取り上げた面接授業

面接授業では、できるだけ地域を取り上げた科目を開講しようと、最近では、「愛媛の方言と文化」「愛媛から見た自然災害論」「正岡子規」などを開講しました。これらはいずれも人気が高くかつ実施後の評判も大変良く、特に「正岡子規」の授業では、松山市の観光施設の目玉の一つである子規記念博物館の館長が講師となって、博物館で授業を行い、全国各地からの受講生にもお褒めの言葉をいただきました。このような地域性を出した授業を今後も増やしていきたいと考えています。

「子規」授業風景
（子規記念博物館内）

生涯スポーツ（カヌー）授業風景

参加者急増！ 年36回の公開講演会

また、所長と8人の客員教員が講師となり各学期に各々2回担当する「公開講演会」を、面接授業のない土曜日・日曜日にセンターで開いています。年間36回の講演会で、参加者（延べ）が、平成21年度は739人、平成22年度は815人、平成23年度は1002人、平成24年度は1学期だけで713人（うち、一般参加者456人）と順調に増えています。この講演会は、学生サービスと地域貢献を目的としたもので、今後も参加者を増やすべく努めていきます。そのためにも、年間4回違ったテーマで講演される客員教員には（なかなか大変そうで）ご苦労ですが、さらに魅力ある内容になるよう頑張ってもらいます。

愛媛学習センター
愛媛県松山市文京町3番（愛媛大学内）　〒790-0826
JR松山駅から市内電車（環状線1）乗車15分　電話:089-923-8544

放送大学叢書刊行20点突破記念トークイベントを開催

教務課

2012年9月8日(土)に、東京・ジュンク堂池袋本店において、放送大学叢書刊行20点突破を記念したトークイベントが開催されました。叢書『教育の方法』の著者で、学習院大学文学部教授・東京大学客員教授の佐藤学先生、最新刊『学びの心理学』の著者で、東京大学大学院教育学研究科教授・放送大学客員教授の秋田喜代美先生の2人による待望の対談で、学校教育が歴史的な転換点にあるなかで、教師の役割や教室の現実などを含めて「これからの学び」について、大いに語り合っていただきました。定員50名程の会場はすぐに満席となり、参加者の皆さんは、メモを取りながら先生方のお話に熱心に耳を傾け、質疑応答の時間には多数の質問が寄せられるなど、盛況のうちに閉会となりました。

(左から)秋田喜代美先生、佐藤学先生

学生募集—教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

広報課・学生課

2013年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	2012年12月1日～2013年2月28日
合否通知等	2012年12月上旬～2013年3月中旬
学費の納入	2012年12月上旬～2013年3月末
入学許可通知	2013年1月下旬～2013年3月末
印刷教材等の配送	2013年2月下旬～2013年3月末
授業開始	2013年4月1日

放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただきますようお願い申しあげます。

2013年3月末をもって学籍が切れる学生の方で、2013年度第1学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。

継続入学手続きがシステムWAKABAからできます。
システムWAKABA > ログイン > 継続入学申請

特別番組「シリーズ遠隔教育」放送のお知らせ

広報課

2回シリーズの1回目は、様々な学生を受け入れ、高等教育の発展に貢献してきた日本の通信制教育の現状と課題、2回目は日本で初めて開かれたアジア公開大学連合(AAOU)の年次大会や海外の公開大学の事情を紹介しながら、今後の遠隔教育を考えます。

放送予定日
【第1回】2013年1月2日(水)10時30分～11時15分
【第2回】2013年1月3日(木)10時30分～11時15分

※2月にも放送する予定です。詳しくはHPでご確認ください。

2012(平成24)年度放送大学学位記授与式について

総務課

2012(平成24)年度学位記授与式の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせします。

日時:2013年3月23日(土)午前11時00分から
場所:NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

編集後記

今回のON AIRは面接授業についての鼎談から始まっている。学生のニーズに応えて授業を提供すべきか、教養学部として必要と判断されるものはニーズが低くても提供すべきか、カルチャーセンターとの違いはどこにあるのか、等など議論は尽きない。放送大学には、大学に初めて入学してきた人もいれば、若い時には勉強できなかった科目を取得したいと思う大卒の人もいる。現在の仕事に役立てたいと思う人もいれば、退職後に自分のしてきた仕事を見直してみたい人もいる。多様な学生のニーズにいかに応えるべきか、放送大学建学時からの難問に教員一同今も悩み続けている。(髙木 保興)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2012年度)

委員長	教授	島内 裕子
副委員長	教授	髙木 保興
委員	副学長	吉田 光男
	教授	井上 洋士
	教授	米谷 民明
	准教授	岡崎 友典
	准教授	秋光 淳生
	准教授	柳沼 良知
編集事務担当		総務部広報課

放送大学
http://www.ouj.ac.jp/ ISSN 1343-3369